

豊川グランドホテルにおける新型コロナウイルス感染症の
軽症者等の受入れにかかる説明会議事録

日時：2020年11月29日（日）午後2時から午後2時40分
場所：八南公民館 和室
参加者：22人（施設周辺の地元代表の方など）

(司会)

予定の時間となりましたので、ただいまから豊川グランドホテルにおける新型コロナウイルス感染症の軽症者等の受け入れにかかる説明会を始めさせていただきます。

初めに本日の説明者の紹介をさせていただきます。

(出席者紹介)

はじめに次第1「主催者あいさつ」について井口感染症対策課長からご挨拶をさせていただきます。

(井口課長)

愛知県感染症対策局感染症対策課の井口でございます。本日はご多用のところ、新型コロナウイルス感染症受け入れにかかる説明会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

現在、愛知県では、新型コロナウイルス感染症拡大の防止のため全力を挙げ様々な取り組みを行っているところでございます。また、皆様方に置かれましては、感染拡大防止へのご協力をいただき大変感謝をいたしております。

本県では、11月以降、感染者が過去最多を更新する日が続くなど、県内の感染状況は厳重警戒にあり、大変厳しい状況にございます。そのような中で、県としては東三河地域では初めてとなる軽症者等の宿泊療養施設の開設に関する地域の方々への説明会を開催させていただくこととなりました。

本日は、この療養施設の開設、運営、感染防止策等について、ご説明をさせていただきます。感染防止のため、窓等を開けさせていただいております。この説明会が長時間になりすぎないように注意して進めていきますので、皆様におかれましてはご理解のほどよろしくお願いいたします。

(司会)

次に、次第2「宿泊者の受入れ、施設の運営及び感染防策について」内田担当課長からご説明させていただきます。

(内田担当課長)

感染症対策課の担当課長をさせていただきます内田と申します。よろしくお願いいたします。お手元にお配りしております資料がありますが、A3の資料をご覧くださいながら、ご説明させていただきます。

宿泊療養施設への新型コロナウイルス感染症の軽症者等の受入れ、施設の運営、感染防止策について説明させていただきます。

開設場所は、「豊川グランドホテル」で、全58室。開設日は12月4日(金)です。ホテルを丸ごと1棟借り上げ、愛知県が運営いたします。

現在、愛知県では軽症者等の療養施設として、東浦町にあります「あいち健康の森健

康科学総合センター健康宿泊館」及び名古屋市中村区にあります「東横INN名古屋名駅南」の2つを開設しております。

県内の感染状況が、大変厳しい状況にある中で東三河地域においても感染者も増えてきております。

現在、東三河地域の軽症者等の方々が宿泊療養施設で療養する場合は、先ほどの2つの施設をご利用いただいておりますが、施設への移動時間等の負担が大きいこともございます。

また、東三河広域連合からも東三河地域で宿泊療養施設を開設してほしいとご要望もいただいております。それらを踏まえまして、地域バランスを考慮し、今後のさらなる感染拡大に備えて、ホテル様のご協力をいただき、この度、開設することといたしました。

東三河地域には、いくつかホテルはございますが、宿泊療養施設として必要な要件、例えば安全に運営するために複数のエレベーター設置してあること、複数の出入口あること等を備え、できる限り早期に開設できること、施設（ホテル）側様の御意向等を勘案し、豊川グランドホテルで開設することといたしました。

入所の対象となる方は、新型コロナウイルス感染症患者のうち、軽症患者又は無症状の方であって、医師が宿泊療養施設での療養が適当と判断した方を対象者としています。

当該施設への入所調整は、愛知県で一括して行う予定です。

入所者については、地理的に東三河地域を中心とする三河地域の方が多くなると思いますが、県内全域も対象と考えております。

入所された方々は、療養生活を終了する基準（解除基準）を満たすまで、この施設の各部屋で療養生活を送っていただきます。

軽症者の方については、原則として発症日から10日間経過し、かつ症状軽快後72時間経過した場合に退所していただくことが可能となっております。以前のようにPCR検査を2回受けて、陰性にならないと退所できないということは、現在はございません。

ホテルについては、原則として、入所者1人につき1部屋を提供し、食事をとりに行く等必要な場合を除き、部屋の中で生活していただきます。

客室にはテレビやベッド、椅子やテーブル等の家具が備え付けられており、Wi-Fi環境も整っています。

入所される方が生活する中で必要な物品については、原則として各自で事前に準備し、持参していただきますが、家族等からの差し入れには可能な限り対応させていただきます。

基本的に入所される方が療養生活を送られる際に、費用負担はございません。

施設では、安心して療養生活を送っていただけるように24時間体制で看護師と生活支援スタッフが常駐し、看護師が毎日定期的に入所の方々の健康状態等を確認しております。医師は、常時電話による対応が可能な体制を取っております。

宿泊療養施設は、病院ではありませんので、入所者の症状が重くなった場合には、医

師に指示を仰いだ上で、県に設置している「新型コロナウイルス感染症調整本部」が入院調整し、感染症指定医療機関等へ患者を搬送いたします。

実際に宿泊療養施設へ入所していただく際には、担当医師の診断等を基に、県で決定しております。

なお、本人から同意を得た上で入所していただくことになります。

こちらの施設に入所される場合は、公共交通機関での移動はせず、原則、県が手配する専用の搬送車両でご自宅まで迎えに行き、直接ホテルに来ていただきますので、途中でほかの人と接触するという心配はございません。それができない場合にはご家族による搬送についても可能な限り対応します。

施設に入所される場合や退所される場合は、図にございますとおり、入所者専用の出入口を利用いたします。図の右の方に入所者用出入口が設けてございます。この出入口は、入退所時以外は、施錠されております。また、出入口のそばには24時間体制で警備員が常駐しております。ホテルの正面玄関についても常時施錠しております。

宿泊療養施設で勤務している看護師や生活支援スタッフについては、入所者との接触の機会、接触する人数は最小限となるようにしております。入所者と職員のいるエリアは完全に分かれております。

また、出勤、退勤時における手洗い、手指消毒、検温はもちろん、常時マスクを着け、看護師は作業時に防護服を着用するなど感染防止対策を徹底しております。

生活支援スタッフである事務職員は、入所者の方と接触することはありません。

施設内における入所者とスタッフのエリアの区分や動線の確保、業務手順についても、感染症の専門医や、感染管理認定看護師の指導の下で行われており、感染が外に広がることのない体制ができております。以上のように施設の運営における感染防止策についても感染防止の徹底に努めておりますことをご理解いただきたいと思います。

以上、宿泊療養施設における入所者の受入れ、運営、感染防止策についてひととおりご説明させていただきました。

現在、開設に向け準備作業を進めておりますが、先ほども申し上げましたとおり、現在、愛知県の感染者の増加は大変厳しい状況となっておりますので、地域の皆様の御理解を得て、宿泊療養施設を開設し、安全に運営を行い、入所者の方々が安心して療養していただけるよう取り組んでまいりたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

(司会)

県からの説明は以上とさせていただきますが、次に藤田医科大学の土井教授から感染防止対策の関係でひとことお願いできたらと思っております。

(土井教授)

今お話にもあったのですが、感染の方がとても増えています。ただでさえ心臓病とか肺炎とか病気になる方が多く、病院が混んでくる冬の時期に、病院機能を守るという観点か

ら、特に発熱だけであとは普通に暮らせるという軽症の方を滞在していただく宿泊療養施設が、非常に必要性がある施設であると認識しております。

発症から10日位入所していただくという話がありましたが、今回のコロナウイルスは一番うつってしまうのが、発症する前後2、3日といわれています。

調子がおかしいなといって検査を受け、陽性になって、例えば宿泊療養施設に入ってこられるという段階は、ピークを過ぎて下がり始めている段階です。

ただ、まだウイルスはちょっとあるという状況なんです。その時期を家庭から離れた、あるいは社会から離れた形で安全に過ごしてもらおうというのが宿泊療養施設のコンセプトです。

実際には大体5、6日くらいで人にうつすことはなくなるということがいろんな研究で分かってきていますが、そこに少し安全の上乗せをして、10日ということになっています。そのようにこちらでも運用されると理解をしています。

もう一点、以前は、試行錯誤だったのですが、宿泊療養施設は、岡崎医療センターから始まって、県の他の施設もお手伝いさせていただいて、かなりやり方がわかってきました。病院とは全然違います。基本的に健康な方、ほぼ健康な方が入っておられるので、食事等も自分でやっていただく。必要なものは宿泊されている階の指定場所に置いておきますので、自分で取りに来て、自分で食事をして、自分で片づけてごみを所定の場所に出すといった形で、職員と入所者とはほとんど接することなく、過ごすことができるようになっていきます。

以前は体温を測りに行ったりしていたんですが、今は基本的に自分で測っていただいて、酸素とか体温もそれを送っていただくという形で、ほぼ職員と入所者の方が分離されています。

もちろん緊急時に対応できるよう看護師の方がおられます。

宿泊療養施設は、非常に静かで、病院などのようにガサガサと人が出入りしているようなイメージとは違うところとだけいただければと思います。

豊川グランドホテルも見学させていただきました。

スペースに余裕がある施設なので、十分なスペースをとりつつ、一方通行で、入る側、出る側といった設計ができています。そういう意味では非常に適した施設なのかなという印象を受けています。これまでの経験を活かして、清潔領域、管理領域、また管理領域から清潔領域に出てくるという一方通行のルートというのがきちんとできて管理されるということです。

また質疑応答でご質問があれば、お答えしていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。